

資料編

実践資料



単元の目標
① 水遊びや盆踊りなどの行事を通して、夏の特徴に関心を持つことができる。
② 夏の植物や行事を題材にした制作活動に、楽しんで取り組むことができる。
③ 夏の過ごし方を知ることができる。

育成を目指す主な教科等の資質・能力	
知 思	① 【生活:小2:サ(イ)】身近な生命や自然について知ること。
	② 【図工:小2:A(イ)】身近な材料や用具を使い、書いたり、形作ったりする。
	③ 【音楽:小2:Aエ(ウ)㊦】示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす。
主	④ 【生活:小2:サ(ア)】自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。
	⑤ 【生活:小2:エ(ア)】身近な遊びの中で、教師や友達と簡単な遊びをしたり、遊びを工夫しようとする。
	⑥ 【図工:小2:A(ア)】材料や感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付く。
	⑦ 【音楽:小2:Aエ(ア)】身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いを持つ。
(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする態度を養う。)	

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)
<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「夏」というキーワードで筋を通して授業をしたが、小単元のつながりや終末に単元全体を通したまとめの活動を工夫するなどの必要があった。</li> <li>・重複児童も一緒に楽しめるような内容の授業の構成にしたが、若干偏りがあったかもしれない。</li> </ul> <p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲を喚起しつつ、見通しを持つことができるような導入の仕方を工夫していきたい。</li> </ul> <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盆踊りの動画や画像を教室に貼り、いつでも見られるようにした。また、やぐらを中心として個々で飾りを作り、みんなで飾り付け、盆踊りの雰囲気を盛り上げることができた。</li> </ul> <p>【授業時数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲を持続させて19時間通した活動を行うために、学習計画の工夫が必要だった。</li> </ul>

学 習	知	① 夏の花、ひまわりがあるということや夏の行事を知ることができた。
		② 粘土や折り紙、筆やローラーやホチキスなど様々な材料や用具を使用した。これらを繰り返し取り組み、少ない支援でできるようにしていきたい。
		③ 手足や体を動かしたり嬉しそうな表情で表現したりすることができた。
価 主	評 思	④ 氷があると涼しくて気持ちがいいということから夏の暑さを感じ取れた児童が多かった。
		⑤ 様々な形の氷を目の前に、それぞれ遊びを工夫していた。友達同士の関わりを増やすことは少し難しかった。
		⑥ 紅白幕を縦に塗ったり自分から飾りを作ったりすることができた。
		⑦ やぐらを囲んで盆踊りを楽しむという思いを持ちながら、おはやしのリズムに合わせて歩調を合わせることができた。
自分なりに楽しさを見付け、主体的に活動できていた児童が多かった。		

時	日付	学習計画	○手立て・留意点	教科
1	6/28	○どんなことをするのか?夏といえば? ・どんなことをするのか,パワーポイントで見る。これから学習する内容を紹介し,見通しを持つ。 ・夏を代表する食べ物,生活道具,花などの二者択一クイズに挑戦する。	○イラスト付きで,順序良く説明し,学習の見通しや期待感が持つことができるようにする。 ○クイズでは,身近な物を題材にし,答えやすくする。また,正解が分かりやすいように,「ピンポン。」と音が鳴るもので示す。	生 国
4	6/29 7/1 7/2 7/6	○氷に触れて感じよう ・できた氷を触ったり割ったりお湯に入れたりして遊ぶ。 ・色水で氷を作り,冷凍庫へ入れる。 ・できた氷で画用紙に色付けをする。	○始めに,様々な種類の氷を提示し,溶かしたり割ったりしながら児童の興味を引き出せるようにする。 ○ペアで氷作りを行ったり,できた作品を見合ったりして,過程や成果を共有できるようにする。 ○調理室まで行き,実際に冷凍庫に入れることで,水が氷になることを体感的に理解できるようにする。 ○実際に氷に触れることで,冷たさ,固さなどを実感できるようにする。	生 図
2	7/7 7/8	○カラオケ大会をしてみんなで盛り上がろう ・友達に聞かせたい曲,好きな曲,披露する曲を決める。 ・お立ち台に上がって歌う。聞いている人はタンバリンやマラカスで盛り上げる。	○歌う人,盛り上げる人の役割を明確にし,今どちらの役割なのかを視覚的に示す。 ○児童が普段口ずさんでいる歌や季節の歌をいくつか用意し,歌いたい歌を選択できるようにする ○部屋を暗くしたり,テレビにカラオケと同じような動画を映したりして,本物のカラオケにできるだけ近づける。 ○巧技台の上に立ち,マイクを持って歌えるようにすることで,意欲を高める。 ・マイクを2本用意し,ペアの仕方を工夫して二人で一緒に歌えるようにする。 ・器具等の消毒を随時行う。	生 音
4	7/12 7/13 7/14 7/20	○夏の花,ひまわりを作ろう ・花びらを手形で,葉っぱを足形で,種を粘土で表し,組み合わせるひまわりを作る。	○教師が示範し,手形や足形がひまわりのどこになるのか,完成のイメージを持つことができるようにする。 ○自分で「できた。」と思えるように,必要最低限の支援にとどめる。 ○粘土をこねるときには,様々な色を組み合わせることで,児童が,それぞれの色を出せるようにする。	生 図
2	7/19	○みんな頑張ったね会をしよう ・前期の写真を見て,頑張ったことや楽しかったことを振り返る。 ・「おつかれさま」の乾杯をする。 ・教師の出し物を見たり,出し物に参加したりして会に参加する。	○夏休み前までの運動会,チャレンジ,育てよう見ようなど,様々な学習の写真をスライドショーで映し,振り返ることができるようにする。 ○教師が行う出し物では,児童が見たり参加したりしながら,楽しい雰囲気で行えるようにする。	生
1	7/21	○明日から夏休み ・夏休みの生活の仕方を確認する。 ・カレンダーを見ながら,夏休みの見通しを持つ。	○早寝・早起きなどの生活習慣,これまで係等で取り組んだことをお手伝いなどに生かせるよう,テレビを使ってイラスト等で提示し,規則正しい夏休みが送れるよう促す。 ○いつからいつまで学校が休みなのかを,カレンダーを使って示すことで,見通しを持つことができるようにする。	生 国
1	8/26	○楽しかったね,夏休み ・夏休みの思い出を発表する。 ・友達の夏休みの過ごし方を知る。	○夏休みの思い出カードを使って,楽しかったことやうれしかったことを発表できるようにする。 ・思い出カードをテレビに映すことで,注目しやすくする。 ○友達の思い出発表に,ハートで「いいね!」を付けられるようにし,聞いている側も楽しく,発表する側もうれしくなる工夫をする。	生 国
4	8/30 8/31 9/1 (本時) 9/2	○盆踊りでおはやしのリズムを感じよう ・盆踊りとは何か,イラストや動画で見る。 ・「じゃぶじゃぶ音頭」の踊りを覚える。 ・様々な材料を使ってやぐらを作る。 ・「じゃぶじゃぶ音頭」に,合いの手を入れる。	○盆踊りは,繰り返して簡単な振り付けにする。 ○やぐらや盆踊りの画像を見ながら,飾りたい物を教師と相談して作成したり,複数の飾りの中から自分が飾りたい物を言葉や指さして選んだりできるようにする。 ・飾り作りでは,触ったり聞いたりすることで楽しさを感じられるように,いろいろな素材に触ったり,音を聞いたりしながら楽しく取り組めるような工夫をする。 ○教師と一緒に考えた合いの手を入れることで,楽しさや参加意識を高められるようにする。 ○はっぴを着て踊ることで,夏の雰囲気を感ずることができるようになる。	生 図 音

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 小音2	示範を見てまねしたり,リズムに合わせて自分なりに身体全体を動かしたりすることができる。	◎	
	思 小音2	氷を使った制作や遊びに取り組み,「冷たい」感覚を感じて,快・不快を言葉で伝えたり,態度で表現したりすることができる。	◎	
	思 小音2	やぐら作りでは,経験や既習の学習から作りたい物や飾りたい物を考え,制作活動に取り組むことができる。	◎	
B	主 小音2	音楽経験を生かして教師や友達と一緒に歌ったり踊ったりして,音楽に楽しく関わろうとする。	◎	
	知 小音1	太鼓を見つけて近寄り,顔を近づけたり,たたこうしたりすることができる。	◎	
	思 小音1	冷たい氷の感覚を手足や顔など全身で感じ,表現することができる。	◎	
C	主 小音1	音や音楽に気付いて,教師と一緒に音楽活動を楽しもうとする。	○	
	知 小音1	流れる音楽や歌を聞いて,手足を動かしたり表情を緩めたりすることができる。	○	
	思 小音1	「冷たい」という感覚を手足や顔など全身で感じ,表情や身振りで表そうとすることができる。	◎	
D	主 小音1	音や音楽に気付いて,教師と一緒に音楽活動を楽しもうとする。	○	
	知 小音2	粘土やローラーを使って,夏に関わる作品や飾り作りをすることができる。	◎	
	思 小音2	打楽器の中から自分で選んだ楽器をたたこうとすることができる。	○	
E	主 小音2	マイクを持ち,曲に合わせて声を出そうとする。	◎	
	知 小音2	示範を見習ったり,リズムを感じたりして,身体全体を動かすことができる。	◎	
	思 小音2	材料や見たことから表したいことを思い付き,作品や飾り作りに取り組むことができる。	◎	
F	主 小音2	自分がしたい活動を選び,進んで飾り作りに取り組もうとする。	◎	
	知 小音2	盆踊りでは,教師の示範を見て,一部まねして踊ることができる。	◎	
	思 小音2	自分で粘土をこねて色を混ぜたり,花びらと種の部分を組み合わせたりして,ひまわりを完成させることができる。	◎	
G	思 小音2	やぐら作りでは,飾りたい物を選んで,自分で付けようとする。	◎	
	主 小音2	氷を使った遊びや色塗りに,意欲的に取り組もうとする。	◎	
	知 小音1	友達の声や曲を聞いて,笑顔になったり声を出したりすることができる。	○	
G	思 小音1	「冷たい」という感覚を手足や顔など全身で感じ,表情をしかめたり目を大きく見開いたりして思いを表現することができる。	◎	
	主 小音1	音や音楽に気付いて,教師や友達と一緒に音楽活動をする楽しさを味わおうとする。	○	

【授業シート】	学部・学年・題材／単元名	小学部・4年・夏を楽しもう	TI	江川 静花			
授業日	9月2日	時間	10:55～11:35	場所	4年1組教室	本時	18時間／19時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

本学習集団は男子4人、女子3人の計7人である。知的障害の他、肢体不自由や病弱を併せ有する児童や、自閉症やダウン症と診断されている児童がいる。

音楽が流れると、自然と体が動いて笑顔になったり、楽器があると一目散に近付いて鳴らしたりするなど、自分から積極的に取り組む児童が多い。今、児童たちの学習の場や人との関わりが減っている状況にあるが、夏にみんなが集まって楽しむ盆踊りという行事があることを経験することで、夏のわくわく感を味わえるようにしたいと考え、小単元「盆踊りでおはやしのリズムを感じよう」を設定した。本時は、「盆踊りでおはやしのリズムを感じよう」の3時間目である。前時は、やぐらに飾りを付けて、紅白に色を塗る活動を通して盆踊りへの意欲を高めた。本時は、これまでに飾ったやぐらを見て、さらに児童の発想でやぐらを飾り付けていきたい。制作に熱中できる児童が多いので、自分なりに工夫しながら飾りを作ることができるように、個に応じた支援を工夫する。音楽が大好きな児童が、自分たちで作ったやぐらの周りを踊ることで、さらに意欲的に踊ったり達成感を感じたり笑顔になったりする姿が期待される。

本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの思いを持って、やぐら作りに取り組むことができる。</li> <li>・制作を通して盆踊りへの気持ちを高め、楽しく踊ることができる。</li> </ul>	① ②	⑥ ⑦

学習活動(時間)	○手立て ・留意点	準備物等
1 始めの挨拶(1分) 2 踊ろう!(7分) 3 作ろう!飾ろう!(26分) ・やぐらにどのような飾りを付けたいか、考えたり選んだりする。	○テーマソング「夏祭り」を始まる前に流し、雰囲気盛り上げる。 ○教師が、太鼓をたたきながらやぐらとともに登場し、楽しさや期待感を高める。 ○太鼓の音やおはやしを聞くことで、盆踊りの雰囲気を味わえるようにする。 ○前時に作って飾った物を示しながら、制作物や制作の過程を褒め、本時の活動への意欲を高めることができるようにする。 ○1時間目に提示した盆踊りの写真を教室に掲示しておき、盆踊りのやぐらのイメージを持つことができるようにする。 ○やぐらにもう少し飾りがあったら楽しいことに気付けるようにして、飾り作りへの意欲を喚起する。 ○飾りのない最初のやぐらと前時に飾ったやぐらの写真を比べ、本時でさらにパワーアップできるように提案する。 ○児童から意見が出ないとき、実際の盆踊りのイメージに近づけるように、やぐらにひもを渡して飾り付けができることを気付けるようにする。 ○児童の工夫でやぐらを完成していけるように、飾り作りに必要な材料や飾りの素材を提示する。 ○児童によっては、やぐらの画像を見て、どの飾りを作りたいか教師と相談して決める。 ・ベンリンや祭り拍子木など、祭りを感じることができるような音色の中から、好きな音を見つけて飾り付けられるようにする。	iPad スピーカー やぐら 笛 太鼓 鈴 太鼓 画用紙 ビニール お花紙 はさみ のり ホチキス ひも 磁石 洗濯バサミ シール テープ 磁石

【予想される活動】

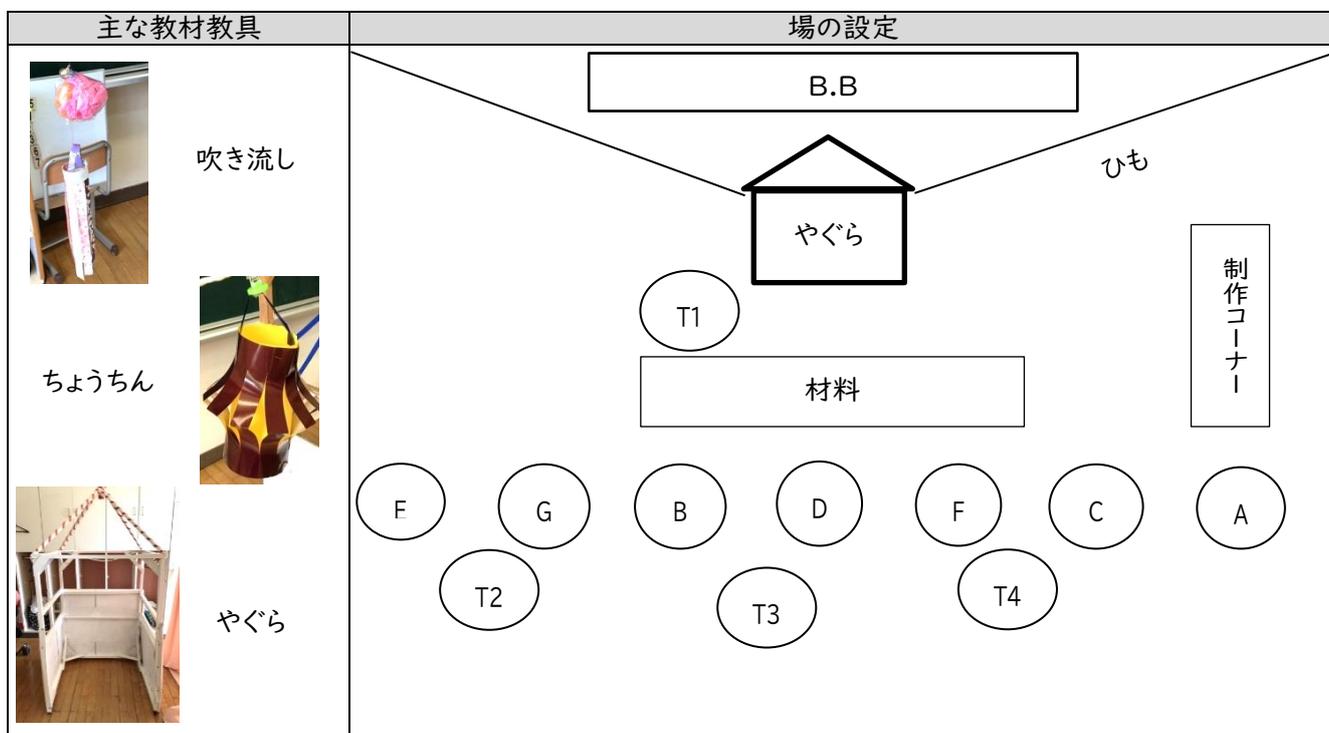
- ・楽器を付ける。
- ・紅白に塗る(貼る)。
- ・提灯を作って飾る。
- ・吹き流しを作って飾る。
- ・BGMをかける。
- ・シールを貼る。

【授業シート】		学部・学年・題材／単元名		小学部・4年・夏を楽しもう		T1	江川 静花
授業日	9月2日	時間	10:55~11:35	場所	4年1組教室	本時	18時間／19時間

<p>4 踊ろう!(5分)</p> <p>5 終わりの挨拶(1分)</p>	<p>・ペアになる組み合わせを工夫して、前半と後半の2グループに分け、それぞれ制作や飾り付けを行う。飾り付けをしていないグループで、見ていることが難しい児童には、やぐらや盆踊りの資料を見て、イメージを膨らませながら待つことができるようにする。</p> <p>○やぐらへ飾りを付ける場合には、それぞれの児童の実態に応じて、洗濯ばさみや磁石、セロテープなどを用意しておく。</p> <p>○作ったやぐらの周りを回ったり、やぐらの中で太鼓をたたいたりすることで、楽しい気持ちで踊れるようにする。</p> <p>○吹き流しの飾りに鈴を付け、触れたり通ったりした際に音が鳴るようにして、楽しさを感じるができるようにする。</p>	<p>写真カード</p> <p>iPad</p>
---------------------------------------	---	--------------------------

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

- ・材料や見たり聞いたりしたことから表したいことを思い付き、作ったり飾ったりすることができたか。
- ・やぐら作りを通して、盆踊りへの気持ちを高め、より楽しく踊ることができたか。
- ・材料の中には、シールや様々な楽器なども置いていたが、それにはあまり関心を示さずに、これまでみんなで作った吹き流しやちょうちん、色塗りに手を伸ばす児童がほとんどだった。既習のものを着実に作り、思いのままに飾ることができた。
- ・飾りを付けた後は、やぐらを周りながら自分たちが作った飾りを触ったり、ゆらして音を鳴らしたりして楽しむことができた。また、そういった友達の様子を見て聞いて笑顔になっている児童もいた。
- ・やぐら作りを通して、自分から進んでおはやしに合わせて体を動かして、さらに楽しく踊ることができた。



単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
①いろいろな素材の感触や特性に親しむ。	知 思 主	①【図工:小2:Aア(イ)】形の変化や材料の違いなどに気付き,身近な材料や用具を使って,書いたり,形作ったりする。	知 思 主
②素材の形状が変化することやその感触の違いに気付く。		②【生活:小2:エ(ア)】身の回りの遊びに気付き,教師や友達と関わりを持ち,同じ場所で遊ぼうとする。	
③友達の活動の様子を見たり,教師や友達と関わったりして,みんなと一緒に活動することを楽しむ。		③【図工:小2:Aア(ア)】素材や用具などから遊びを思い付く。 ④【生活:小2:ウ】意欲を持って学んだり,生活に生かそうとしたりする。 ⑤【図工:小2:ウ】進んで表したり見たりする活動に取り組み,作り出すことの楽しさに気付くとともに,形や色などに関わることにより楽しい生活にしようとする。	

時	日付	学習計画	○手立て・留意点	教科	個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
活動の流れ					A	知 思 主	教師と一緒に素材や用具に触り,いろいろな感触に触れる。 友達が遊ぶ様子や教師の働き掛けにより一緒に遊ぼうとする。 教師の働き掛けを受け入れて遊ぼうとする。	○ ◎ ○	
					B	知 思 主	教師と一緒に素材に触り,いろいろな感触に慣れる。 友達が遊ぶ様子を見て,まねをしたり,働き掛けを受け入れたりする。 自分から素材に触ろうとする。	◎ ○ ○	
					C	知 思 主	遊びを通して,身近な材料や用具を使う。 教師の支援を受けながら,宝探しやおもちゃ作りを楽しむ。 提示された用具に関心を持ち,それらを使って遊ぼうとする。	◎ ○ ◎	
					D	知 思 主	遊びを通して,身近な材料や用具を使う。 友達が遊んでいる様子を見ながら一緒に遊ぶ。 教師の支援を受け入れ,用具の使い方を理解し,意欲的に遊ぼうとする。	◎ ◎ ◎	
					E	知 思 主	教師と一緒に素材や用具に触れ,遊びに関心を持つ。 周囲の様子に気付き,自分も遊ぼうとする。 自分の順番だけでなく,友達の遊ぶ様子を感じとろうとする。	◎ ○ ◎	
					F	知 思 主	教師と一緒に素材に触り,いろいろな感触に慣れる。 友達が遊んでいる様子を見て,自分の順番がくるのを楽しみにして待つ。 自分から素材に触ろうとする。	○ ◎ ○	
					G	知 思 主	新聞紙の形状や状態の変化を通して,素材の感触に気付く。 握ったり,押したりして,自分なりに素材を変化させようとする。 様々な素材に触ろうとする。	◎ ○ ○	
					H	知 思 主	教師や友達の手本を参考にして,遊びながら用具の使い方を知る。 教師や友達と関わりながら,感触遊びを楽しむ。 教師の働き掛けを受け入れて遊ぼうとする。	◎ ○ ○	
					I	知 思 主	素材や用具に興味を持ち,使い方を理解する。 教師や友達と関わりながら,感触遊びを楽しむ。 用具の使い方を工夫して遊ぼうとする。	◎ ○ ○	

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
【学習内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新聞紙で遊ぼう」での,傘を使ったちぎった新聞紙のシャワーが良かった。そこから,散らばった新聞紙を大きなちりとりを使って,みんなで集める活動に展開したことで,友達との関わりをもつことができた。</li> <li>・「新聞紙粘土を作ろう」「新聞紙粘土で作ろう」では,ちぎった新聞紙に水を加えることでぐしゃぐしゃになっていく感触を十分に楽しむことができた。さらにのりと合わせて紙粘土状にし,ゲームをきっかけにして楽しみながら制作活動へつなげることができた。</li> <li>・「スライムで遊ぼう」では,昨年触れなかった児童がスライムに触ることができた。学習の積み重ねの成果を感じた。</li> <li>・制作活動が始めにあることで,やぶらないで取り組むことができた反面,新聞紙の感触を十分に楽しんでから,制作活動につなげる工夫も必要だと感じた。</li> </ul>
【手だて】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新聞紙で作ろう」では,ファッションショーのような導入で,作りたいという意欲を持つことができた。</li> </ul>
【教材】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞紙という素材から,切る,ちぎる,ぐちゃぐちゃにする等というように活動を発展させながら感触遊びを広げることができた。また新聞紙を使ったいろいろな遊びをすることで,様々な感触を経験でき,楽しく活動することができた。</li> </ul>

学習評価	知	① 新聞紙に水を加えてぐちゃぐちゃになっていく変化を感じたり,スプーンやへら,大きなちりとり等の道具を使って遊んだりすることができた。
	思	② 教師の働き掛けを受け入れて遊んだり,友達の様子からまねして遊んだりすることができた。 ③ 十分に素材に触れる時間を取ることで,手での感触を味わったり,体を使って自分から変化させて遊んでみようとしたりすることができた。
	主	④ もっと触りたいという気持ちから片付けに取り組んだり,素材にさらに水を加えて形を変えるなど楽しく遊べる方法はないか工夫したりすることができた。 ⑤ 新聞紙遊びやスライム作りでは,作りたい物や好きな色を進んで選んだり,時間を忘れて夢中になって取り組んだりすることができた。

単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
① 自然や社会の様々な事象に触れ、経験の幅を広げる。	知	①【国語:小3:ア(ア)】身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くことができる。	主
② 集団行動に触れ、公共施設の使い方を身に付ける。		②【生活:小3:コ(イ)】日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすることができる。	
③ 家庭や学校以外の場所で、場面に応じた行動がとれるようにする。		③【生活:小3:ク(イ)】金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けることができる。	
④ 修学旅行の思い出を振り返りまとめる。		④【国語:小3:Cウ】日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要なものを選んだり行動したりすることができる。	
※作品制作と関連した目標が設定されていたが、感染症対応により修学旅行の期日が変更になったため割愛した。		⑤【生活:小3:コ(ア)】日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現することができる。	
		⑥【生活:小3:ク(ア)】日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いになれることができる。	
		⑦上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	

時	日付	学習計画	○手立て・留意点	教科
1	10/19(火) A①	オリエンテーション ・活動予定の確認 ・「修学旅行の歌」をみんなで 作ることを知る。	○下見の際に撮影した写真や動画等を提示し、修学旅行への見通しと期待が持てるようにする。 ・聞きなれた「さんぼ」の音楽に合わせて歌詞を作ることを知る。 自分たちだけの歌を作ることで修学旅行への意欲を高める。	生 国 音
12	10/20(水) A②B①	A 修学旅行の歌 係の分担 (あいさつ・司会等)	A○役割分担を行い、一人一役の活躍の場面を設ける。 ○しおりの「めあて」「荷物チェックリスト」の欄に記入する。 ・書くことが難しい児童は、頑張りたいことのイラストを教師と一緒に 選ぶことができるようにする。	生 国 体
	10/21(木) B②C①	めあての作成 荷物の確認等	○新しい旅のエチケットについて必要な事柄に気付き、教師と一緒に 感染症対策を行うことができるようにする。(養護教諭による指導)	
	10/22(金) D①E①	旅先でのエチケットの理解 (3単位時間=15分×9)	B○動画等を活用して、園内のアトラクションを再現し、疑似体験する場 を設定する。 ・園内の雰囲気をすることで、見通しをもって活動できるようにする。 ・リストバンドを着ける等、園内でのルールやマナーを確認する。	生
	10/25(月) C②E②	B リナワールド (3単位時間=15分×8)	C○着替えの手順や入浴時のマナー(大浴場の使い方)についてのクイ ズを通して楽しみながら学べるようにする。 ○体の洗い方は、教師や友達の模倣をしたり、教師と一緒に体を動 かしたりしながら練習する。 ○ホテル館内での過ごし方や食事のマナー等について学習する。給 食時や校内の廊下の歩き方等、場面を捉え、意識して生活できる ようにする。	生 算 体
	10/26(火) B③D②	C ホテルでの過ごし方 (2単位時間=15分×6)	D○実物のりんごを使って意欲を高める。 ○枝から実を取る疑似体験を通して、もぎ取る感覚やりんごの重さな ど感じるができるようにする。	生 算
	10/27(水) B④C③	D りんご狩り (1単位時間=15分×3)	E○昼食の食券とお土産のそれぞれの買い方を練習する場を設定する。 ・iPadで券売機を再現し、昼食購入の練習をする。 ・誰にどんなお土産を買うかを考え、決められた金額内で商品を選ぶ 練習ができるようにする。	生 算
	10/28(木) B⑤E③	E 観光物産館買い物学習 (3単位時間=15分×9)	F○粘土を使って陶芸の成形を疑似体験できるようにする。 ・雨天時の場合のみの活動ということを踏まえ、おおまかな作り方の 手順に触れる程度にする。(雨天の可能性が高くなったときのみ計画を調整して実施)	生 図
	10/29(金) A③C④	F 陶芸(15分×1)		
	11/2(火) A④E④	*A~Eの学習内容を15~2 0分ずつ、組み合わせて学 習することで、学習内容を 少しずつ積み重ねられるよ うにする。		
	11/4(木) A⑤B⑥E⑤⑥			
	11/5(金) A⑥⑦⑧E⑦⑧			
	11/8(月) B⑦D③E⑨			
11/9(火) C⑤⑥				
11/10(水) A⑦B⑧				
1	11/10(金)	修学旅行結団式 ・修学旅行の歌 ・引率教員の紹介 ・めあての発表	○引率者と顔合わせたり、引率者の話を聞いたりして、一緒に活動す る気持ちを高める。 ○めあてを確認し合いながら、目的を持って修学旅行に行く気持ちを 高める。	生 国
3	11/15(月) 11/16(火) 11/18(水)	・修学旅行の写真や動画等を 視聴し、活動を振り返る。 ・めあての振り返りをする。 ・まとめのポスターを作る。	○修学旅行の楽しかった思い出をポスター等にまとめる。 ・写真やイラスト、文字カードなどを用意し、必要に応じて活用し、教師 と一緒に仕上げる。	生 国

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	買い物をする場所、宿泊する場所など施設の役割に気付き教師と一緒に利用することができる。	○	
	思	「〇〇買う。」「〇〇食べる。」など、施設に応じた利用の仕方を言葉や指差しなどで表現できる。	○	
	主	上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	◎	
B	知	金銭を大切に扱いながら、家族へのお土産や食べたい食事など目的に合わせて購入することができる。	◎	
	思	様々な施設で働いている人の役割に気付き、教師に伝えることができる。	○	
	主	上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	○	
C	知	リナワールドでは、手首のフリーパス券をそのまま活動することが分かる。	○	
	思	自分が食べたい昼食や買いたい物を選んで買うことができる。	◎	
	主	上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	○	
D	知	「これをください。」「幾らですか。」などのやり取りをしながら、つり銭やレシートを正しく取り扱いながら、買い物をするすることができる。	◎	
	思	手指消毒やマスクの着用など衛生面を意識し、遊園地で乗りたい物やお店で買いたい物などを教師に伝えながら活動できる。	◎	
	主	上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	◎	
E	知	リナワールドやホテルで友達と一緒に活動することが分かる。	◎	
	思	買いたい物を選ぶなど、目的に合う買い物を教師と一緒にする。	○	
	主	上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	○	
F	知	身の回りの人との関わり方に関心を持つことができる。	○	
	思	硬貨や紙幣に触れて金銭の感触を確かめ、教師と一緒に扱おうとすることができる。	◎	
	主	上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	○	
G	知	自分の食べたい昼食を選び、券売機にお金を入れて購入することができる。	◎	
	思	看板や表示などを見て、場面に応じて必要な物を選んだり行動したりできる。	○	
	主	上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	○	
H	知	決められた金額の範囲内で、品物を選んで買い物をするすることができる。	○	
	思	買い物や食券を買う場面で、自分の買いたい物が分かり、選ぶことができる。	◎	
	主	上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	○	
I	知	身の回りの人との関わり方に関心を持つことができる。	○	
	思	身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとするすることができる。	◎	
	主	上記を主体的に学び、生活に生かそうとする。	○	

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
・毎時間の導入時に、主な4つの活動(リナワールド、りんご狩り、観光物産会館、ホテル)のスライドを提示しながら歌うことで、学習の見通しを持たせ、期待感を高めることができた。ウクレレの伴奏を聞いて笑顔を見せる児童もいた。	
・主な4つの活動について、4人の教員で役割分担して、1単位時間に組み合わせて指導することで、児童の集中力を持続させたり、学習内容の定着につながりやすくなった。	
・リナワールドのリストバンドを模した紙テープを手首に付けて遊園地の動画を視聴したり、木の枝に付けたりんごをもぎ取ったりするなど、疑似体験を多く取り入れた。このことは、学習内容の理解や旅行先での活動の見通しを持つことにつながった。また、乗り物の音やりんごの感触及び香りなどに注意を向け、目を開いたり声を出したりするなど、諸感覚を協応させながら捉えることにもつながった。	
・引率する教員から、個々の児童の目標を共有する上で単元シートは大変有効だったという話を聞いた。	
・教師と話した感想と振り返りの写真を見た際の感想が異なる児童がいた。写真の印象により感想が変わってしまった様子である。児童によっては、印象的な出来事を振り返った後に写真を提示するなど、振り返りの際の資料の提示方法を検討する必要があると感じた。	
・修学旅行中にお世話になった方々への感謝の気持ちを表す手紙等の作成の時間を加えた。次年度以降、事後指導の内容として加えた方が適切であると考えている。	

学 習 評 価	知	①児童によっては、めあてを活動内容と照らし合わせながら捉えることで「話を聞く」「大切」「自分のことは自分で」などの言葉の働 きに気付くことができた。
	思	②「リナワールド」「果樹園」「観光物産会館」「ホテル」の4つの施設について、名称や扱っている物について理解できた。
	主	③レジャや券売機の場所に気付いて、自ら財布や品物を持って行くなど、買い物活動に取り組むことができた。
		④ホテルでは自分の部屋番号を理解して入室したり、施設のよって異なるトイレの表示を理解して使用したりすることができた。
		⑤「リナワールド」「果樹園」「観光物産会館」「ホテル」の4つの施設について、活動内容と結びつけて目標を発表したり、楽しかった 活動と合わせて感想を発表したりすることができた。
		⑥自動販売機の学習を生かして券売機で食券を購入したり、縁日の学習を生かして金銭が足りなくならないように大切に扱ったりす るなどすることができた。
		⑦修学旅行のめあてを意識して学校生活をより良くしようとしたり、校外学習で活用したりする姿が見られた。

時	日付	学習計画	○手立て・留意点	教科
	常時活動	① はじめ・終わりのあいさつ ② 活動内容を知る。	・姿勢を正しくして、日直に注目するように言葉掛けをする。 ・学習に適した環境を整え、TIや提示する教材に注目しやすくする。	
2	8月30日(月)2・3校時 ・修学旅行について知ろう ・オリエンテーション	① 修学旅行について知る。 ② 行程等を理解する。	○小学部のとときの写真等を見ることでイメージできるようにする。 ○下見の写真や動画を見ることで行程等をイメージできるようにする。 ○予定表(地図風に行程を示すもの)を作ることで、行程をイメージできるようにする。 ・写真や動画をヒントに作成するように促す。 ・予定表作成用シートにイラスト等を貼ることで予定表を作れるようにする。	社
2	8月31日(火)3・4校時 ・乗り物・集団行動について知ろう	① 乗り物の乗り方(座席・マナー)について知る。 ② 並び順, 移動時のマナー等を理解する。	○乗り物の中の様子の写真や映像を見て, 乗り方やマナーなどについて体験や示範などを通して確認できるようにする。 ○校舎内で集団行動や歩行練習を行うことで確認できるようにする。	社 国
2	9月1日(水)3・4校時 ・集団行動について知ろう2	① 並び順, 整列の仕方などを理解する。 ② 歩道の歩き方を理解する。	○移動時, 並んで歩く練習に取り組む。実際に校外学習(雷神社)に徒歩で行くことで実態に応じた学習ができるようにする。 ・事故や体調に気を付けながら行う。	家
2	9月2日(木)3・4校時 ・衛生面について知ろう	① 修学旅行中のマスク, 手洗い, 消毒について理解する。 ② マスクの付け方や捨て方, 消毒のタイミングなどについて知る。	○旅行中の衛生面について具体的な例を提示し, 手洗いや消毒など示範を見ながら確認できるようにする。 ・消毒機器(足踏み式)を実際に使って練習し確認できるようにする。	社
2	9月3日(金)3・4校時 ・えさし藤原の郷について知ろう	① 施設や見学の内容などについて見通しを持つ。 ② 昼食について理解する。	○写真や映像を見て, 施設の特徴や見学の内容などについて確認できるようにする。 ○記念写真・食事・活動について, 楽しい活動を考えて発表することで, 活動を楽しみにする気持ちを高められるようにする。	社 国
2	9月6日(月)2・3校時 ・手づくり村について知ろう	① 写真を見ながら施設の特徴や体験の内容などについて理解する。 ② 粘土を触ってみる。 ③ どんな物が売っているか写真等を見て理解する。	○写真や映像を見て, 施設の特徴や見学の内容などについて確認できるようにする。 ○陶芸用の粘土を触ってみて体験の見通しを持てるようにする。 ○記念写真・食事・活動について, 楽しい活動を考えて発表することで, 活動を楽しみにする気持ちを高められるようにする。	社 国 家

時	日付	学習計画	○手立て・留意点	教科
2	9月7日(火)3・4校時 ・小岩井農場について知ろう	① 写真を見ながら施設の特徴や見学の内容を理解する。 ② メニューや土産について写真で確認する。	○写真や映像を見て, 施設の特徴や見学の内容などについて確認できるようにする。 ○記念写真・食事・活動について, 楽しい活動を考えて発表することで, 活動を楽しみにする気持ちを高められるようにする。	社 国 家
3	9月8日(水)2・3・4校時 ・ホテルでの過ごし方を知ろう	① 宿泊するホテルの部屋や食事, マナーについて知る。 ② 部屋割りを理解する。	○宿泊するホテルの写真を見て, 過ごし方やマナーなどについて確認する。 ○部屋割りの発表を聞き, 誰と一緒に確認できるようにする。 ○下見の写真や動画を見ることで部屋での過ごし方, 入浴の仕方などを確認できるようにする。	社
2	9月9日(木)3・4校時 ・荷物の確認をしよう。	① 写真やイラストで荷物を確認する。 ② チェックリストで荷物を確認する。	○チェックリストや写真を見ながら, 事前に持ってきた荷物の中身を教師と一緒に確認できるようにする。	社 家
2	9月10日(金)3・4校時 ・買い物について知ろう	① どんなお土産を買うか考える。 ② 模擬買い物をする。	○各施設で売っている土産や食べ物の写真などを見せ, 何を買いたいか, 何を食べたいかリストを作成させることで考えられるようにする。 ○模擬店を作り, チェックリストを見ながら買い物体験をできるようにする。	家 社
2	9月13日(月)2・3校時 ・個人目標を決めよう	① 個人目標を決める。	○行程を最終確認し, 2日間の活動の中で楽しいことやがんばりたいことを考えさせることで個人目標を決められるようにする。	国
2	9月14日(火)3・4校時 ・結団式について知ろう	① 係を決める。 ② 次第を作る。	○結団式の次第や係の内容を示すことで, 係を決めることができるようにする。 ○生徒の実態に応じた作業を工夫し, 次第作りができるようにする。	国
2	9月15日(水)3・4校時 ・結団式練習をしよう	① 係ごとに練習する。 ② 通して練習する。	○個人ごとに練習し, 次第に沿って全員で練習できるようにする。	国
8	9月21日~27日 8時間 ・振り返ろう, 報告会準備をしよう	① 修学旅行の振り返りをする。 ② 報告会の準備をする。	○写真や動画を見ることで振り返りができるようにする。 ○報告会の内容を知らせることで準備できるようにする。	国 社 家
	常時活動	・終わりのあいさつ	○あいさつする日直の生徒に注目するように促す。 ○姿勢を正して, あいさつできるようにする。	



【授業シート】	学部・学年・題材／単元名	中学部・3年／修学旅行へ行こう	T1	高橋正俊			
授業日	8月30日(月)	時間	10:00~11:15	場所	中学部3年1組教室	本時	1・2時間目／35時間

本単元に関わる児童・生徒の実態及び授業について		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行は生徒が楽しみにしている行事である。修学旅行に行きたいという気持ちを学習への積極的な取り組みに反映することができるように学習活動を工夫し、単元目標の達成につなげたい。</li> <li>・生徒の多くは、言語だけの説明を理解したり集中したりすることは難しい。そこで、絵本や動画等に対しては集中できるという実態を生かした手立てを工夫したい。</li> <li>・本単元の導入であるので、修学旅行全体のイメージを持ち、旅行を楽しみにする気持ちを高めることができるようにしたい。</li> </ul>		
本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
○修学旅行の日程や目標などについて確認することを通して修学旅行に対する期待感を持つ。	① ②	① ⑧

学習活動(担当生徒)	○手立て・留意点	準備物等
1 はじめの挨拶(日直)	・姿勢を正しくして、日直に注目するように言葉掛けをする。	
2 本時の学習内容を知る。 ○プレゼンテーションで提示される内容を確認する。	○小学部修学旅行時の写真を見ることで学習内容を予想し確認できるようにする。 ・生徒の気持ちを高めるために、学習内容を最初に提示せず、予想する時間を設ける。	テレビ iPad
3 修学旅行について知る。 ○修学旅行全体的なイメージを確認する。 ○修学旅行の目的について確認する。	○小学部修学旅行時の写真を活用し、イメージを確認できるようにする。 ○修学旅行についての○×クイズを行い、修学旅行の目的等を確認できるようにする。	○×表示
4 修学旅行の行程を知る。 ○修学旅行の行程等を確認する。 ○予定表を作る。	○プレゼンテーション(写真や動画含む)や教師の寸劇を見ることで、旅行の行程等を確認できるようにする。 ○模造紙にイラスト等を貼ることで、予定表を作ることができるようにする。 ・模造紙にヒントを提示し、考えやすくする。	模造紙
5 まとめ ○行程等を再確認する。 ○修学旅行を頑張る合い言葉を確認する。	○完成した予定表を見ながら行程を再確認する。 ○修学旅行を頑張る合い言葉を提示し、復唱することで確認できるようにする。	
6 終わりの挨拶(日直)	・姿勢を正しくして、日直に注目するように言葉掛けをする。	

本時の評価 (各教科等の学習評価に向けた視点も踏まえて)
写真や動画を活用したことで、生徒が意欲的に学習に取り組む様子が見られ、修学旅行に対する期待感を持つことができたと思われる。本単元で設定した「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、進んで学習に取り組む素地を作ることができたといえる。今後も、この学習意欲を継続できる手立てを講じて単元の学習を展開していきたい。

主な教材教具	場の設定						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション資料(画像及び動画)</li> <li>・○×表示カード</li> <li>・予定表作成用模造紙</li> <li>・予定表作成用イラスト等</li> </ul>	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ホワイトボード</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">テレビ</div>  <table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生徒席 A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生徒席 C</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生徒席 E</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生徒席 B</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生徒席 D</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生徒席 F</td> </tr> </table> </div>	生徒席 A	生徒席 C	生徒席 E	生徒席 B	生徒席 D	生徒席 F
生徒席 A	生徒席 C	生徒席 E					
生徒席 B	生徒席 D	生徒席 F					

単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
・初夏に植えた稲を刈り取り,収穫の喜びを味わう。	←	知	①【職業:中1:Aイ(ア)㊦】作業課題が分かり,使用する道具等の扱い方に慣れる。 ②【理科:中1:Aア①】昆虫や植物の育ち方には一定の順序があることを知る。
・前期の目標を振り返り,自分の頑張ったことを確かめるとともに,後期の目標を考える。		思	③【国語:小3:Bウ】見聞きしたり,経験したりしたことについて,簡単な語句や短い文を書くことができる。
		主	④ 上記を主体的に学び,生活に生かそうとする。

時	日付	学習計画	○手立て・留意点	教科	個	教科	個別の目標	◎達成 ○概ね達成 △達成できない	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
1 5 2	9/27(月)2・3校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>田植えをしたことを思い出す。</li> <li>苗が生長して穂が実ったこと,これが毎日食べているごはんになることを知る。</li> <li>稲を刈り取り,ひもで結んで,干す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベランダで育てたバケツ稲を教室の床に全て並べ,子供たちの目の前に田んぼを出現させることで,本時の活動に興味を持つことができるようにする。</li> <li>田植えの写真を提示し,苗が生長して穂が実ったことに気付くことができるようにする。</li> <li>昨年度の写真を見ることで,これが御飯になることを知る。</li> <li>今後,御飯として食べることができるまでの簡単な工程を示すとともに,本日の活動について,手本を示しながら説明する。</li> <li>一人ずつ順番に出てきて,TIと一緒に稲を鎌で刈り取る。</li> <li>刈り取った稲穂をひもで縛り竿に干す。</li> </ul>	理 職	A	知	鎌を使って一人で稲を刈ったり,ひもで束ねたりすることができる。	◎		
						思	前期を振り返り,頑張ったことを簡単な文で書き表すことができる。	○		
						主	上記を主体的に学び,生活に生かそうとする。	○		
B					B	知	鎌を使って一人で稲を刈ったり,ひもで束ねたりすることができる。	◎		
						思	前期を振り返り,頑張ったことを簡単な文で書き表すことができる。	○		
						主	上記を主体的に学び,生活に生かそうとする。	◎		
C					C	知	教師と一緒に鎌を使って稲を刈ったり,ひもの両端を手で引っ張って稲を束ねたりすることができる。	○		
						思	前期を振り返り,プリントに自分で選んだ写真を貼ってまとめることができる。	◎		
						主	上記を主体的に学び,生活に生かそうとする。	△		
D					D	知	教師と一緒に鎌を使って稲を刈ったり,ひもの両端を手で引っ張って稲を束ねたりすることができる。	○		
						思	前期を振り返り,プリントに自分で選んだ写真を貼ってまとめることができる。	◎		
						主	上記を主体的に学び,生活に生かそうとする。	△		
3 5 4	9/29(水)3・4校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期の自分の目標を確かめる。</li> <li>前期の活動の写真を見て,振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に作成した自己紹介プリントを見ることで,自分の前期の目標を確認できるようにする。</li> <li>目標に関わる活動の様子が分かる写真を一人一人に提示し,前期の振り返りプリントにその写真を貼ったり,文を書いたりしながら振り返ることができるようにする。</li> </ul>	国	E	知	教師と一緒に鎌を使って稲を刈ったり,ひもの両端を手で引っ張って稲を束ねたりすることができる。	◎		
						思	前期を振り返り,プリントに自分で選んだ写真を貼ってまとめることができる。	○		
						主	上記を主体的に学び,生活に生かそうとする。	△		
5 5 9	10/4(月)2・3校時 10/6(水)3・4校時 10/8(金)3校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期の主な活動について知る。</li> <li>前期の活動を振り返りながら,後期に何を頑張りたいかを考え,目標を立てる。</li> <li>前期に頑張ったこと,後期に頑張りたいことを発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習発表会の写真等を提示することで,主な行事等について見通しを持つことができるようにする。</li> <li>後期に頑張りたいことを,プリントに絵を貼ったり,文を書いたりしてまとめることができるようにする。</li> <li>発表の際に,前期の振り返りプリントや後期の頑張リプリントを活用する。</li> </ul>	国	F	知	鎌を使って一人で稲を刈ったり,ひもで束ねたりすることができる。	◎		
						思	前期を振り返り,頑張ったことを簡単な文で書き表すことができる。	○		
						主	上記を主体的に学び,生活に生かそうとする。	○		
G					G	知	教師と一緒に鎌を使って稲を刈ったり,ひもの両端を手で引っ張って稲を束ねたりすることができる。	◎		
						思	前期を振り返り,プリントに自分で選んだ写真を貼ってまとめることができる。	○		
						主	上記を主体的に学び,生活に生かそうとする。	△		

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
・	<p>中学部の生活単元学習で「植物を育てよう」として扱われる時数は,4・5月が4時間,7・8月が2時間,9・10月が2時間であるため,稲の生長の様子を授業に意図的に組み込んで観察することはできなかったが,ベランダに置いた台にバケツ稲を設置し,丈が伸び,青から黄金色に変わっていく様子を日常的に見られるようにしたことで,今回の授業に興味を持って取り組むことができた。</p> <p>・稲刈りの手順や注意点をイラスト等で提示し,更に教師が手本を示したことで,手順を理解して自分一人で最後まで活動できたり,また,教師と一緒に取り組んだりすることができた。</p> <p>・コロナ禍ということで,収穫した稲をどうするか(食べるか,作品作りに生かすか)検討中である。</p>

学習評価	
知	①自分一人で,または教師と一緒に鎌を使って稲を刈ることができた。 ②自分たちが植えた稲の苗が生長したことが分かり,収穫作業に取り組むことができた。
思	③前期の自分の目標や活動について,簡単な文を書いたり,写真を貼ったりして振り返ることができた。
主	④どの活動においても,自分が何をするのかについて,提示されたイラスト等を見て確認しようとする様子が少しずつ見られるようになってきている。

単元の目標	
① 夏休みの望ましい生活について見通しを持ち、夏休みへの期待感を高める。	
② 教室の清掃や片付けを通して、友達と協力しながら自分でよりよい環境作りをしようとする意識を高める。	
③ 植物を育て、植物に親しみ、大切にしようとする意識を高める。	

育成を目指す主な教科等の資質・能力	
知	①【家庭:中2:Bオ(ア)】住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動を通して、快適な住まい方や、安全について理解し、実践する。 ②【理科:中 2:B イ(ア)】身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物や植物の生長と季節の変化に着目して、それらと関係づけて調べる活動を通して、植物の生長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを身に付ける。
思	③【家庭:中2:B オ(イ)】住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動を通して、季節の変化に合わせた快適な住まい方に気付き、工夫する。 ④【理科:中2:B イ(イ)】身近な動物や植物の変化について調べる中で、見出した疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現する。
主	⑤【家庭:中 2】社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養おうとする。

時数	日付	学習計画	○手立て・留意点	主教材
	常時活動	1 はじめのあいさつ 2 今日の活動内容を知る	○学習に適した環境を整え、TIや提示する教材に注目しやすくする。	
1	夏の作品を作ろう 6/23~7/5	・夏をモチーフに個人作品と壁面に飾るための共同作品を作ることを知る。 ・個人作品のための、夏をイメージした文字を書く。	・単元の初めの学習として、学習計画の見通しを持てるようにする。 ○作品を作るために、夏のイメージを考えられるようイラストなど視覚的に示す。 ○作品の見本を見せ、何を描きたいか選べるようにする。	理家
4	夏休み直前頑張ったね会 I 7/9~12	・自動販売機に買い物学習に行く。 ・ゲーム大会等を企画し、夏休み前に友達と一緒に頑張ったことを共有する。	○ジュースを2本購入し、1本は当日、もう1本は夏休み前の振り返り学習の時に飲むことを知らせ、意欲付けを図る。 ○わくわく教室などで取り組んで自分たちが楽しかったゲームを選び、協力して楽しく活動できるようにする。	社
4	大掃除をしよう 7/14・19	・教室の窓や床、机・いす、ロッカーなどをきれいにする。	○気持ちよく生活するためにどうするか考えられるように、写真などで示す。 ○掃除する場所ごとに掃除の方法や道具を示す。	家
3	夏休み直前頑張ったね会 II 7/20・21	・頑張ったことを写真等で振り返りシートにまとめて発表し合う。 ・頑張ったね会をする。	○夏休み前の学習や行事を写真等で振り返り、自分が頑張ったことや思い出に残ったことを写真等から選べるようにする。 ○簡単なゲームを楽しんだり、会食をしながら思い出の写真を振り返ったりする。	社
6	夏休みの生活(前)夏休みに向けて 7/20・21 (後)夏休み明け頑張ろう 8/26・27	・夏休みの過ごし方を考える。 ・夏休みのめあてを考える。 ・夏休みに頑張ったことや思い出を発表する。 ・前期のまとめの学習に見通しを持つ。	○夏休みの生活について、イラストや写真などを提示し、より良い過ごし方を考えられるようにする。 ○夏休みの生活で頑張りたいことや気を付けたいことを選べるよう、写真やイラストで分かりやすく示す。 ○夏休み前に考えためあてや「夏休みの思い出」をもとに、発表するようにする。 ・夏休みの宿題として、めあてシートや思い出シートを事前に保護者をお願いする。 ○夏休み明けの学習や行事について、写真などを用いながら見通しが持てるよう提示する。	家社
4	植物を育てよう 8/30・31	・夏に植える植物を知る。 ・鉢植えて育てる植物を植える。	○夏の植物を写真等で提示する。 ○植物の育ち方と季節の移り変わりを関連付けて考えられるようにする。 ・一人一鉢育てるようにする。	理
	常時活動	終わりのあいさつ	・あいさつする日直の生徒に注目するように促す。 ・姿勢を正して、あいさつできるようにする。	

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 生活小3	集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けることができる。	○	
	知 生活小3	身の回りの簡単な手伝いや仕事を進めようとすることができる。	○	
	知 生活小3	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働き掛けて学んだりしようとする。	△	
B	知 家中1B	住まいの主な働きや、整理・整頓の仕方について知り、実践しようとする。	○	
	知 生活小3	日常生活の手伝いや仕事を進めようとする。	○	
	知 生活小3	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働き掛けて学んだりしようとする。	△	
C	知 家中1A	自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ることができる。	○	
	知 家中1A	望ましい生活環境や余暇の過ごし方について気付き、工夫することができる。	○	
	知 家中1	家族とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする。	○	
D	知 家中2B	快適な住まい方や、安全について理解し、実践することができる。	○	
	知 家中1B	季節の変化に合わせた住まい方や清掃の仕方に気付き、工夫することができる。	○	
	知 家中1	家族とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする。	○	
E	知 生活小1	集団の中での役割に関心を持つことができる。	△	
	知 生活小2	教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする。	△	
	知 生活小3	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働き掛けて学んだりしようとする。	○	
F	知 生活小1	集団の中での役割に関心を持つことができる。	○	
	知 生活小1	身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒に進めようとする。	○	
	知 生活小1	自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会に関心を持ち、意欲を持って学ぼうとしたりする。	○	
G	知 生活小3	集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けることができる。	○	
	知 生活小3	日常生活の手伝いや仕事を進めようとする。	○	
	知 生活小3	自分のことに取り組んだり、身近な人々に自ら働き掛けて学んだりしようとする。	△	
H	知 家中1B	住まいの主な働きや、整理・整頓の仕方について知り、実践しようとする。	○	
	知 家中1B	季節の変化に合わせた住まい方や清掃の仕方に気付き、工夫することができる。	○	
	知 家中1	家族とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする。	△	
I	知 生活小2	簡単な係活動などの役割について知ることができる。	○	
	知 生活小2	教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする。	○	
	知 生活小2	自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々に自ら働き掛けて学ぼうとしたりする。	△	
J	知 生活小3	手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けることができる。	○	
	知 家中1B	季節の変化に合わせた住まい方や清掃の仕方に気付き、工夫することができる。	△	
	知 生活小3	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働き掛けて学んだりしようとする。	○	
K	知 生活小3	手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けることができる。	○	
	知 生活小3	手伝いや仕事を進めようとする。	○	
	知 生活小3	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働き掛けて学んだりしようとする。	○	

学習評価	知	①掃除の学習活動を通して、快適な生活を感じ取ることができるように雑巾掛けの前後の雑巾や窓の状態をみんなで確認して共有するようにしたことは分かりやすかったと思う。
	思	②果物クイズや植物の生長に必要なことなど、視覚的な教材が分かりやすかった。季節の変化による違いについての理解は難しい。
	主	③季節をイメージできるものを生活に取り入れることで、季節感を感じることに繋がったと思うが学校生活にとどまり、家庭生活には至らない。
評価	思	④これまで取り組んだ畑や花壇の学習から、視覚的な教材をヒントにして植物の生長や変化について考えたり、発表したりする姿が見られた。
	主	⑤友達の様子を見たりやりとりしたりしながら、自分のことに取り組む活動をする中で、学校生活での実践として意欲的に学習することにつながったと思うが、地域生活や家庭生活までは広がらなかった。

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)
・教育課程の単元構成上、学習内容が煩雑になったことは、今後改善が必要と思った。
・小単元については、生徒の実態を踏まえて、学習する内容や教材、資料の提示の仕方、場設等を工夫し、単元のねらいにせまることができたと思う。

単元の目標	
① 買い物の計画や小遣い帳をつけるなど, 実生活に生かせる技能を身に付ける。	(知識・技能)
② 問題解決のために話し合ったことを図や表などで発表する。	(思考力・判断力・表現力等)
③ 金銭について学習した技能や考えたことを実生活で生かそうとする。	(学びに向かう力・人間性等)

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
【学習内容】	
・単元の前半で消費税や割引などの計算をすることで, 実際に購入する物の値段を考えることや毎時の導入で計算方法を確認することで, 学習内容の定着につながった。	
【手立て】	
・計画ではペア学習を工夫しながら, 学習内容の習熟を図りたいと考えていた。感染症予防の観点から, ペア学習は2時間のみとしたため, 生徒が互いにやり取りがうまくいかない場面もあった。本単元に限らず, いろいろな場面でコミュニケーションをとれるような場面を設定する必要があると感じた。	
【資質・能力】	
・合計金額をグラフに表す際のデータが2回分の買い物の金額だけになってしまったため, データの数としては不十分であると感じた。	
・育成を目指す資質・能力が多すぎたため, 取り扱う場面を設定できないものもあった。資質・能力と学習計画を考えて設定していきたい。	

育成を目指す主な教科等の資質・能力		
知	A 数と計算 ①【数学:高1:イ(ア)⑦】ある数の10倍, 100倍, 1000倍, 1/10, 1/100などの大きさの数を, 小数点の位置を移してつくること。 ②【数学:高1:ウ(ア)⑦】概数が用いられる場面について知ること。 ③【数学:高1:ウ(ア)⑦】四捨五入について知ること。 ④【数学:高1:ウ(ア)⑦】目的に応じて四則計算の結果の見積りをする事。 ⑤【数学:高1:エ(ア)⑦】大きな数の加法及び減法の計算が, 2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また, その筆算の仕方について理解すること。 ⑥【数学:高1:エ(ア)①】加法及び減法の計算が確実にでき, それらを適切に用いること。 ⑦【数学:高1:オ(ア)①】乗法の計算が確実にでき, それを適切に用いることができる。	
	C 変化と関係 ⑧【数学:高1:ウ(ア)⑦】ある二つの数量関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。	
	D データの活用 ⑨【数学:高1:ア(ア)⑦】数量の関係を割合で捉え, 円グラフや帯グラフで表したり, 読んだりすること。 ⑩【数学:高1:ア(ア)①】円グラフや帯グラフの意味やそれらの用い方を理解すること。 ⑪【数学:高1:ア(ア)⑦】データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。	
	思	A 数と計算 ⑫【数学:高1:イ(イ)⑦】数の表し方の仕組みに着目し, 数の相対的な大きさを考察し, 計算などに有効に生かすこと。 ⑬【数学:高1:ウ(イ)⑦】日常の事象における場面に着目し, 目的に合った数の処理の仕方を考えるとともに, それを日常生活に生かすこと。
		C 変化と関係 ⑭【数学:高1:ウ(イ)⑦】日常の事象における数量の関係に着目し, 図や式などを用いて, ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し, それを日常生活に生かすこと。
		D データの活用 ⑮【数学:高1:ア(イ)⑦】目的に応じてデータを集めて分類整理し, データの特徴や傾向に着目し, 問題を解決するために適切なグラフを選択して読み取り, その結論について多面的に捉え考察すること。
		A 数と計算 ⑯【数学:高1:ウ】数量について数学的に表現・処理したことを振り返り, 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度, 数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	主	

学 習 評 価	知	A 数と計算 割合や割引, 消費税などの計算をすることができた。生徒によっては計算機を使用した。この学習活動を通して①~⑦に示した資質・能力が身に付いた。 C 変化と関係 百分率の考えを取り入れたことで割引をイメージすることができた。⑧に示した資質・能力が身に付いた。 D データの活用 ⑨について数量の関係を割合で捉え, 割引の計算をすることができた。⑩⑪については身に付けることが難しかった。
	思	A 数と計算 買い物をするという日常生活の場面を設定することで⑫, ⑬に示した資質・能力が身に付いた。 C 変化と関係 使った金額をグラフ化することで⑭に示した資質・能力が身に付いた。 D データの活用 使用するデータの数が少なかったため⑮に示した資質・能力を身に付けることが難しかった。
	主	A 数と計算 日常生活に関わる買い物を題材としたことで, 割引の品物の値段を求めたり, 選んだ品物の合計金額を求めようとしていたり意欲を持って取り組んでいた。⑯に示した資質・能力が身に付いた。

時	日付	学習計画	○手立て・留意点	教科
I	7/14 (水)⑤	○お小遣い内でお土産を買う。 ・タブレット端末や雑誌を用い、修学旅行で行く予定のUSJで買うお土産を選ぶ。(9000円~10000円の範囲で、3点以上購入する。)	○タブレット端末や雑誌、ワークシートを提示し、興味を持たせる。導入時に電卓の計算練習を行うことで、スムーズに計算ができるようにする。 ・お土産を選ぶことが目的ではなく、選んだ物を計算することが目的であることに留意する。	
I	7/19 (月)④	○割引① ・「○割引」、「○○%OFF」の計算を行う。	○お店にある表示を写真などで提示する。割合や%を計算で求めることができるよう見本を提示する。 ・電卓の使い方を確認し、繰り返し練習することで、%や割引を小数点で考えられるようにする。	
I	7/20 (火)③	○消費税① ・消費税の計算の練習を行う。	○割合や%を計算でもとめることができるよう見本を提示する。 ・割合や%を計算するだけでは、税金の部分だけにしかならないことに留意する。	
I	9/1 (水)④	○割引②、消費税② ・「○割引」、「○○%OFF」の計算を行う。 ・消費税の計算の練習を行う。	○前時の2回分の復習を取り入れながら学習内容の習熟を図る。	
I	10/5 (火)⑤	○買い物の計画を立てて買い物をしよう。 ・テーマを決めて、購入する商品を選ぶ。 ・スーパーの広告から商品を選び、購入した商品を計算する。 ・小遣い帳に記入する。	○スーパーの広告からテーマに合わせて品物を選ぶ。品物を選ぶことができない生徒がいる場合も考慮し、買い物リストを用意する。 ・小遣い帳にレシートを張るイメージができるワークシートを用意する。 ・ワークシートを回収し、次回に渡し復習できるようにする。	
I	10/14 (木)⑤	○買い物の計画を立てて買い物をしよう ・テーマを決めて、購入する商品を選ぶ。 ・スーパーの広告から商品を選び、購入した商品を計算する。 ・小遣い帳に記入する。前回の買い物との合計金額を求める。 ・グラフに金額を記入し、前回との増減の比較をする。	○導入時に前回の授業の確認を行い、本時の流れを伝える。合計金額の増減を、数字とグラフで比較することで、見え方の違いを確認する。品物を選ぶことができない生徒がいる場合も考慮し、買い物リストを用意する。 ・小遣い帳にレシートを貼るイメージができるワークシートを用意する。 ・本来は、月ごとの小遣い帳を付けることも必要であることを伝える。	

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 数高1	乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いることができる。	◎	
	思 数中2	目的に応じてデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりできる。	○	
	主 数高1	数量についての数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してより良いものを求めて粘り強く考える態度、数学の良さに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	○	
B	知 数高1	乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いることができる。	◎	
	思 数中2	目的に応じてデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりできる。	○	
	主 数中2	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	○	
C	知 数高1	乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いることができる。	◎	
	思 数中2	目的に応じてデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりできる。	○	
	主 数中2	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	○	
D	知 数高1	乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いることができる。	○	
	思 数中1	数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を発見するとともに、日常生活で生かすことができる。	△	
	主 算小3	数量の違いを理解し、算数で学んだことの良さや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようという態度を養う。	○	

<b>【授業シート】</b>		学部・学年・題材／単元名	高等部・2年/金銭	TI	大和 慶宣
授業日	10月14日(木)	時間	13:10~14:00	場所	高等部2年4組教室
				本時	6時間/6時間

本単元に関わる児童生徒の実態及び授業について

本学習集団の生徒は、一度の説明で理解できる生徒と繰り返し説明する必要がある生徒がおり、指示理解の程度に多少の違いがある。そのため、全体で学習内容を確認した後に机間指導を行い、生徒に応じて学習内容の理解を促している。また、計算における習熟度にも差があり、四則計算や少数・分数の計算が得意な生徒もいる反面、九九を学習中の生徒もいる。金銭については、数学の他に、校外学習の中で買い物をすることや、交通機関を利用するための学習の中でお金の使い方を学んでいる。また、電車やバスで通学し、普段から現金やICカードを利用している生徒もいる。

金銭の取扱いについては、実態が大きく異なっている。そこで、ペア学習を工夫して取り入れる。それぞれのペアの中で、個々の得意なところを生かすことや助け合い・学び合いを行うことで、協力して課題に取り組んでいくという場面を設定する。テーマと設定金額を決めて買い物をするや小遣い帳を記入して管理することを一人だけで学習するのではなく、仲間とともに考えていくことで考え方の違いに触れ、より良い方法や自分なりの考え方をを見つけることができるようにしていきたい。

本時の目標	関連する単元の目標	関連する資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>○計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること。</li> <li>○身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながらデータを読み取ったり、考察したりすること。</li> </ul>	① ②	⑥ ⑮

学習活動(時間)	○手立て・留意点	準備物等
1 ウォーミングアップ課題に取り組む。	○金額の合計や消費税、割引の計算について電卓を使って行う。 ・問題が終わった際には、教師に報告するよう言葉掛けをする。 ・分からないときには、教師に知らせるように言葉掛けをする。	電卓
2 既習事項の確認をする。	○購入する品物の合計金額の求め方や小遣い帳の記入の仕方などの確認をする。 ・回収していた前回のワークシートを配布する。 ・購入するものを選び、伝票にまとめて合計金額を求めるとい流れを伝え、表情を見ながら言葉掛けをする。	
3 本時の学習内容を確認する。	○「クラスメイトと一緒に楽しみ会をする」というテーマを提示し、購入する商品を最低五品選択して合計金額を計算する。設定金額は2000~3000円の範囲とする。 ・ペアになり、指定されたテーマで買い物をする。商品を探し、合計金額を求め。選択した品物の値段を、伝票に記入する。 ・購入する商品を探し、電卓での計算を行う。計算した結果をペアと確かめるよう言葉掛けを行う。	電卓 ワークシート① ワークシート② 広告
4 小遣い帳の記入。合計金額をグラフに表す。	○小遣い帳に合計金額を記入し、前回との累計を出す。前回と今回の合計金額を、ワークシートに書き、グラフに表す。 ・小遣い帳及びグラフの見本を提示し、どのように記入すればよいかを言葉掛けする。	ワークシート③
5 ペアごとに発表する。	○テーマ、合計金額、グラフ、合計金額の増減について発表する。 ・合計金額や増減について発表するよう言葉掛けを行う。	
6 合計金額の増減を数字とグラフの二観点から比較する。	○本時の学習の振り返りを行う。 ・小遣い帳やグラフをつけることで、使った金額がどのくらいになるのかを把握できることを伝える。 ・実生活では、月毎の集計を行うことが大切であることを伝える。	

本時の評価 (各教科等の学習評価の視点も踏まえ)

割引の計算を確認しながら、電卓を使って素早く行えるようになった。スーパーの広告を見ながらのペア活動は、購入する商品についてのやりとりができたペアもあったが、設定金額を最初から二人で分けてからそれぞれで購入するという形をとってしまったところもあるため、もう少し相談をして品物を選ぶような工夫を行う必要があった。合計金額を求め、グラフに表すことで、変化を読み取ることもできていた。

ワークシート①

レシート添付欄

	のりしろ	のりしろ	のりしろ	のりしろ
合計				
累計				

Arrows in the original image point from the '合計' and '累計' rows to the corresponding columns in the table above.

ワークシート②

記入用レシート用紙

合計金額	合計金額	合計金額	合計金額

ワークシート③

777

	月 日	月 日	月 日

単元の目標	
<p>①水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。</p> <p style="text-align: right;">【知識・技能】</p> <p>②水溶液の性質や働きについて調べる中で性質・規則性に及び働きについて、より妥当な考えをまとめる力を養う。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p> <p>③水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。</p> <p style="text-align: right;">【主体的に学習に取り組む態度】</p>	

育成を目指す主な教科等の資質・能力	
知	<p>C 物質・エネルギー</p> <p>【理科:高:1段階】ア 物の溶け方(ア)①⑦</p> <p>①物が水に溶ける量には、限度があること。</p> <p>②物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。</p> <p>【理科:高:2段階】イ 水溶液の性質(ア)⑦</p> <p>③水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること</p>
思	<p>C 物質・エネルギー</p> <p>【理科:高:1段階】ア 物の溶け方(イ)</p> <p>④物の溶け方について調べる中で、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。</p> <p>【理科:高:2段階】イ 水溶液の性質(イ)</p> <p>⑤水溶液の性質や働きについて調べる中で、溶けているものによる性質や働きの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>
主	<p>C 物質・エネルギー</p> <p>【理科:高:1段階】</p> <p>⑥物の溶け方、電流の働きについて進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。</p>

時	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教科
	9/1⑤ 9/8⑤ 9/13④ 9/15⑤	物の溶け方 ・実験器具の使い方 (メスシリンダー、駒込ピペット) ・粉末の見分け方 (砂糖、食塩、片栗粉、コーヒーシュガー、 ミョウバン) ・粉末を溶かす ・粉末を水に溶かした物をろ過をする	○実際に実験器具を取り扱うことで意欲を高める。 ・ガラスでできているので壊してけがをしないよう知らせる。 ○身近な粉末を実際に触ることにより、意欲を高めつつどれがどの粉末かこれまでの生活経験等を生かして根拠を持って予想できるようにする。 ・実験では安易に舐めたりしないようにする。 ○粉末を水に入れてかき混ぜた物が透明なのか、濁っているのか光を当てて確かめることのできる。	
	9/21④ 9/22⑤	酸性・中性・アルカリ性 ・身のまわりの水溶液をリトマス紙とBTB溶液で反応を見る。	○色が大きく変わる試薬を使用することで分かりやすくする。また、身のまわりの水溶液を使用することで意欲を高める。 ○予想では、名称、外観、臭気などを調べるよう促す。 ・いろいろな水溶液を混ぜると有毒なガスが発生することがあるので混ぜないようにする。	
	9/29⑤	まとめテスト	○これまで行った実験を振り返られるような掲示物等を準備する。 ○個にあったテストとする。AB 課程の生徒には色の付いたシールを貼ったりする。	

個	教科	本単元における個別の目標(1組)	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	物の溶け方が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	○	
	思	予想や仮説を立ててから実験することができる。	○	
	主	水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	
B	知	物の溶け方が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	予想や仮説を立ててから実験することができる。	○	
	主	水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	
C	知	水溶液の性質が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	○	
	思	水溶液の性質について規則性を見つけることができる。	○	
	主	水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	
D	知	物の溶け方が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	予想や仮説を立ててから実験することができる。	○	
	主	水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	
E	知	水溶液について知ろうとする。	△	
	思	水溶液について分かったことを表現しようとする。	○	
	主	実験などに対して意欲をもって学ぼうとする。	○	
F	知	観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	○	
	思	実験に対して生活経験を基に予想することができる。	○	
	主	疑問に思ったことを進んで調べようとする。	○	
G	知	水溶液の性質が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	水溶液の性質について規則性を見つけることができる。	○	
	主	水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	

**単元の反省**(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)

水溶液(化学領域)では、身近な題材であり、複雑な内容も少ないため高等部 2 年生に適切な学習内容であると感じた。現象に対して予想、検証の流れが組み立てやすく、生徒の興味・関心目標も高い単元である。また、目標を達成するための手立てが講じやすい単元でもあったと感じた。実験器具の習得では教師の示範だけでなく、動画などを見せ視覚的に操作法をイメージさせることができた。また、ワークシートの記入を簡素化し実験に取り組む時間を多く確保することができた。授業時数も程よく、今回は感染症対応のため学級単位での学習となったが、集会室で一斉形態も可能な学習である。

個	教科	本単元における個別の目標(2組)	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	高2 水溶液の性質が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高2 水溶液の性質について規則性を見つけることができる。	○	
	主	高2 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする	◎	
B	知	生3 水溶液に関心をもって調べる。	○	
	思	生3 水溶液について分かったことを表現する。	△	
	主	生3 実験などに対して意欲をもって学ぼうとする。	○	
C	知	生3 水溶液に関心をもって調べる。	◎	
	思	生3 水溶液について分かったことを表現する。	○	
	主	生3 実験などに対して意欲をもって学ぼうとする。	◎	
D	知	生2 水溶液について知ろうとする。	△	。
	思	生2 水溶液について分かったことを表現しようとする。	○	
	主	生2 実験などに対して意欲をもって学ぼうとする。	○	
E	知	高2 水溶液の性質が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高2 水溶液の性質について規則性を見つけることができる。	◎	
	主	高2 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする	○	
F	知	高2 水溶液の性質が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高2 水溶液の性質について規則性を見つけることができる。	◎	
	主	高2 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする	○	
G	知	高2 水溶液の性質が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高2 水溶液の性質について規則性を見つけることができる。	◎	
	主	高2 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする	○	

個	教科	本単元における個別の目標(4組)	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	中1 実験を基に水溶液の性質について気付くことができる。	○	
	思	中1 実験結果から差異点や共通点に気付き、疑問をもつ。	○	
	主	中1 疑問に思ったことを進んで調べようとする。	○	
B	知	高1 物の溶け方が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高1 予想や仮説を立ててから実験することができる。	○	
	主	高1 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	
C	知	高1 物の溶け方が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高1 予想や仮説を立ててから実験することができる。	○	
	主	高1 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	
D	知	中2 観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	中2 実験に対して生活経験を基に予想することができる。	○	
	主	中2 疑問に思ったことを進んで調べようとする。	○	
E	知	高1 物の溶け方が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高1 予想や仮説を立ててから実験することができる。	◎	
	主	高1 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	
F	知	高2 水溶液の性質が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高2 水溶液の性質について規則性を見つけることができる。	◎	
	主	高2 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする	○	
G	知	中2 観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	○	
	思	中2 実験に対して生活経験を基に予想することができる。	○	
	主	中2 疑問に思ったことを進んで調べようとする。	○	
H	知	高1 物の溶け方が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高1 予想や仮説を立ててから実験することができる。	○	
	主	高1 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	

個	教科	本単元における個別の目標(3組)	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知	中2 観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	○	
	思	中2 実験に対して生活経験を基に予想することができる。	◎	
	主	中2 疑問に思ったことを進んで調べようとする。	○	
B	知	中1 実験を基に水溶液の性質について気付くことができる。	◎	
	思	中1 実験結果から差異点や共通点に気付き、疑問をもつ。	◎	
	主	中1 疑問に思ったことを進んで調べようとする。	○	
C	知	高1 物の溶け方が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高1 予想や仮説を立ててから実験することができる。	◎	
	主	高1 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする。	○	
D	知	高2 水溶液の性質が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高2 水溶液の性質について規則性を見つけることができる。	○	
	主	高2 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする	○	
E	知	高2 水溶液の性質が分かり、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	◎	
	思	高2 水溶液の性質について規則性を見つけることができる。	◎	
	主	高2 水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする	○	
F	知	生3 水溶液に関心をもって調べる。	◎	
	思	生3 水溶液について分かったことを表現する。	○	
	主	生3 実験などに対して意欲をもって学ぼうとする。	○	
G	知	中2 観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付ける。	○	
	思	中2 実験に対して生活経験を基に予想することができる。	◎	
	主	中2 疑問に思ったことを進んで調べようとする。	○	

学 習 評 価	知	①②③知識・技能では、実験に取り組む時間を多く確保できるように、記述の少ない形式のワークシートを作成したり、実験操作を動画や画像で視覚的に示すことで少ない指示で実験に取り組むことができた。
	思	④⑤指示薬の色の変化を視覚的に提示し、印象付けることによって、その知識を基に、実験結果から考察することが円滑にできた。
	主	⑥酢や石けん水など身近な水溶液を使用することによって、酢が酸性であることや、成分表示に液性が表示されていることを知り、学習した知識を基に、安全な取り扱いができるような態度を養うことができた。

単元の目標	
① 造形的な視点について気づき, 材料や用具の扱い方に親しむとともに, 表し方を工夫する技能を身に付ける。 (知識・技能)	←
② 造形的な良さや面白さ, 表したいことや表し方などについて考え, 経験したことや思ったこと, 材料などを基に, 発想し構想するとともに, 身近にある造形や作品などから, 自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。 (思考力・判断力・表現力等)	←
③ 楽しく美術の活動に取り組み, 創造活動の喜びを味わい, 美術を愛好する心情を培い, 心豊かな生活を営む態度を養う。 (学びに向かう力・人間性等)	←

育成を目指す主な教科等の資質・能力	
知	①【美術:高1:Aア(イ)】材料や用具の特性の生かし方などを身に付け, 意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。 ②【美術:高1:共通ア(ア)】形や色彩, 材料や光などの働きを理解すること。
思	③【美術:高1:Aア(ア)】対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと, 伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し, 構成を創意工夫し, 心豊かに表現する構想を練ること。 ④【美術:高1:共通ア(イ)】造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。
主	⑤【美術:高1:ウ】楽しく美術の活動に取り組み, 創造活動の喜びを味わい, 美術を愛好する心情を培い, 心豊かな生活を営む態度を養う。

単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)
全体的にそれぞれがイメージーションを膨らませて楽しみながら制作できていた。ただ, 形にこだわるあまり, 思ったより作業に時間がかかっていた。授業時数については, 翌日に繰り越すと乾燥してしまうため。風船に和紙を張る活動は4時間続けて行えるとさらに良かった。

学 習 評 価	知	①昨年度のコットンボールを使用して作成した知識を生かして, 表現を工夫することができた。 ②色や形を考えてデザインを考えることができた。
	思	③たくさんの例示の中から自分の好みのもを見つけ, 組み合わせてオリジナルのものを作成することができた。 ④完成をイメージして作成することができた。
価	主	⑤教師に確認したり, 自分で考えたりしながら, 自分の思い通りの作品に仕上がるよう集中して行うことができた。

時数	日付	学習計画	○手立て・留意点	教科
常時活動		1 はじめのあいさつ 2 今日の活動内容を知る	○学習に適した環境を整え、TIに注目しやすくする。 ○アマビエの張り子を作成することを伝える。	美
2	9月13日 3・4校時	・教師の作成した見本や動画を見る ・自分のデザインを考える	○教師の作成した見本を見て、動画で工程表を示し、作品の見通しを持てるようにする。 ・動画に注目できるよう配慮する。 ・興味が持てるような教師の見本・動画を準備する。 ○自分の作品のデザインを考える。 ・考えやすいよう、いろいろな作品例を提示する。	
2	9月14日 3・4校時	・作品を制作する	○自分の考えたデザインを基に制作する。 ・手順が分かりやすいよう工程表を示す。 ・悩んでいる際には言葉掛けをする。	
1	9月21日 3校時	・作品の台を作る	○作成した作品の台を作成し、固定する。 ・和紙を輪にして作品を置き、接触している部分をボンドで接着する。	
1	9月22日 3校時	・作品の説明文を書く	○作品の説明文を書く。 ・教師が工夫した点などを聞き取るなど、文章にできるようにする。 ・説明文を基に次時の発表ができるよう練習する。	
1	9月22日 4校時	・発表会をする ・鑑賞会をする	○説明文を基に発表する。 ・多様な作品に対して肯定的な感想を持てるよう言葉を付け加える。自分以外の作品5つを選びコメントを付けて渡す。	

個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 国小1	身の回りの自然物などに触れながらかく、切る、ぬる、はるなどすること。	○	
	思 国小1	材料などから、表したいことを思い付くこと。	△	
B	主 国小1	進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	○	
	知 国小1	身の回りの自然物などに触れながらかく、切る、ぬる、はるなどすること。	○	
C	思 国小1	材料などから、表したいことを思い付くこと。	△	
	主 国小1	進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	○	
D	知 美中1	材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。	◎	
	思 美中1	経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。	◎	
E	主 美中1	楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。	◎	
	知 美中2	材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。	△	
F	思 美中1	経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。	○	
	主 美中1	楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。	◎	
G	知 美中2	材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。	◎	
	思 美中2	経験したことや創造したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。	○	
H	主 美中2	主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。	◎	
	知 美高1	材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。	△	
I	思 美高1	対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	△	
	主 美高1	楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	○	
J	知 美高1	材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。	○	
	思 美高1	対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	○	
K	主 美高1	楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	○	